

WORK  
**GNOSIS AE201** × Mercedes-Benz CLA  
**GNOSIS GSR1** × Mercedes-Benz GLC

鑄造2ピースで表現する  
鍛造ビレット感

グノーシスは輸入車を対象に標準P.C.D.を設定したホイールブランド。  
新たに登場した2タイプはグノーシスのデザインコンセプトである鍛造ビレット感が一段と強調されている。

問●ワーク 西日本TEL.06・6746・2859 中日本TEL.052・777・4512 東日本TEL.048・688・7555 www.work-wheels.co.jp  
撮影協力●car shop YSR TEL.072・369・4050 www.ysr0443.jp/  
撮影&文●芝 修



GNOSIS AE201 × Mercedes-Benz CLA

GNOSIS GSR1 × Mercedes-Benz GLC





## WORK GNOSIS GSR1

× Mercedes-Benz GLC

SPEC  
inch 22/21SR/20  
RIM FULL REVERSE/STEP RIM



↑カラーバリエーションはAE201と同じ。リムはバフアルマイトリムが標準設定。ワークならではのリムアレンジやディスク部のセミオーダーカラーで個性的なスタイルに仕上げることも可能



↑GSR1のDNAを受け継いだシンプルな10スポークはビレット感を強調したストレートコンケーブ。センターキャップ周りのディンプルデザインやナットホール周りの丸味をなくした六角造形などシンプルなスポークタイプの中に繊細なデザイン処理を施している。60φのセンターキャップは標準装備でオプションとして4パターンを用意している

現する鍛造ビレット感」というグノシスのデザインコンセプト通りの仕上がりになっている。そしてGSR1をイメージさせつつも10本スポーク先端のアンダーカットやPCD周りの繊細なデザイン処理はGSR1ならではのアピールポイント。サイズはフルリバースの22インチまでラインアップされており、シンプルかつ力強いデザインでメルセデスGLCのような重厚な雰囲気や漂う大型SUVの足元に違和感なく収まっている。

そしてAE201はこれまでのグノシスとは一線を画した異質な存在。最近のアメ鍛ホイールには削り出しとは思えないほどの柔らかい曲線で複雑なデザインが採用されている。その流れに沿って鍛造風の直線的なデザインに彫刻で造形したような柔らかな曲線を加えたのだ。AE201のAはART(芸術)、EはENGRAVING(彫刻)という意味。このAE201もGSR1同様にスポーク先端にアンダーカットを入れて軽快感を強めると共に内側には水掻き形状を加えるなどそのネーミングどおりの彫刻を思わせる美しいデザインが随所に折り込まれている。

この両タイプとも断面はグノシスSCVシリーズのミドルコンケーブと同等形状。各スポークはセンターに向かってなだらかに落ち込んでいる。そして2ピースの象徴ともいえるピアスポルトの座面は新設計の山型断面形状でピアス数を抑えることでシンプルさをアピールしている。



## WORK GNOSIS AE201

× Mercedes-Benz CLA

SPEC  
inch 22SR/21/21SR/20  
RIM FULL REVERSE/STEP RIM



←↑センター付近をU字形にしたツイン5スポーク。スポークを単調にリム部に繋げるのではなく先端部をアンダーカットして、その下側には水掻き形状のデザイン処理を施している。またナットホール開口部はストレートデザインにこだわった結果のスクエアタイプ



↑カラーはブラッシュドとブラック/アウトサイドポリッシュ/マットシルバも設定あり。オプションカラーとしてコンボジットバフブラッシュドとバフフィニッシュが有り

ワークのグノシスはいち早く輸入車をターゲットにして立ち上げた国産ホイールブランド。各モデルがユーザーから支持されてバリエーションが増す中、新たに2タイプが加わった。

まずGSR1はグノシスシリーズの初代モデルGSR1の直線的デザインをイマ風にアレンジした力強い10スポーク。GSR1のRはGSR1からのレポリューションを意味している。そのスポークは見ての通りアメ鍛ホイールを連想させるエッジの効いたデザインでまさに「鍛造で表

### 山型断面形状の新設計ピアスポルト座面

## コンケーブ感を強めた10スポーク&ツイン5スポーク